

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530920

研究課題名(和文) グループ・スーパービジョンにおける学び体験に関する研究

研究課題名(英文) A study on learning experience in group supervision experience

研究代表者

吉川 眞理 (Yoshikawa, Mari)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：50242615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円、(間接経費) 1,140,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では「グループ・スーパービジョンにおける学び体験尺度」を作成し英訳を行った。107名の回答を得て4つの下位因子：発見的学び体験、共感的学び体験、学びの困惑体験、方向付けの期待体験が見出された。2013年度のアメリカ心理学会で本尺度を用いた日本における初心者と熟練者の比較を発表し、異文化の研究者と討論を行ったところ、スーパービジョンにおける発見的学びを阻害する要因として、学びのスタイルやその期待に関する文化差要因を考慮する必要性が浮かび上がった。本研究により臨床における学びの現象がさまざまな文化的要因の影響を受けることが明らかになり、そのプロセスについてさらに詳細で綿密な調査が期待される。

研究成果の概要(英文)：The present study developed Inventory of Group supervision experiences and translated into English. The 4 factors; Discovery learning, Empathetic learning, Perplexity, Expecting guidance were founded. We conducted comparison of group supervision experiences in 107 Japanese Clinical Psychologists between Experienced and beginners and the result was presented in 2013 American Psychological Association Congress. The discussion with cross cultural researchers in this field suggested that culture would affect the learning attitude and expectation to inhibit the discovery learning attitude and expectation. From the present study it is expected to investigate the process of how the cultural factor effect on learning experiences.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：心理臨床実践訓練 グループ・スーパービジョン 学びの体験 尺度作成 初心者 習熟者 文化比較事例研究

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 研究対象となるグループ・スーパービジョンの心理臨床訓練における位置づけ  
グループ・スーパービジョンは、日本における心理臨床における実践的な訓練方法として、訓練者、初心者、熟練者と通じてひろく行われてきた。欧米の心理臨床家の養成機関で学んだ初期の心理臨床家によって日本に導入されてきた訓練方法である。ここでいうグループ・スーパービジョンは、グループメンバーが交代で事例を提示し、その事例に関してメンバー相互でディスカッションを行う形式の相互学習的グループを指す。グループの目的、参加者の人数、参加の自発性、料金、スーパーバイザーの人数などによって分類が可能であろう。この分類によれば、広い意味で、臨床心理士養成指定大学院の心理相談室における実習として行われているケース・カンファレンスもグループ・スーパービジョンと位置づけられるだろう。

### (2) 研究者のこれまでの研究経過

この訓練・研修において、参加者がどのような学び体験を持つことができるのかについて扱っている研究はまだ十分とはいえない。吉川ら(2009)の研究は、グループ・スーパービジョンにおける参加者の学び体験を聴取、また自由記述を求め、発見的学び(事例の流れを追うことで起こっていることの意味がわかった等)、助言による学び(他者の指摘から自分が気付いていなかったことに気づいた/指導者のコメントから指導者の考え方を学ぶことができた等)、普遍原則の学び(個別事例から一般原則を仮定し確認できた等)、代理体験の学び(自分が治療者の立場ならどう対応したか考えた等)などの各項目を設定した。

### (3) 本研究の意義

従来、事例研究の意義に関する研究は多く蓄積されており、また個人スーパービジ

ョン体験に関する研究も多く蓄積されてきた。これに対して、臨床心理士養成指定校のカンファレンスや有志のグループ・セッションとして運営されるグループ・スーパービジョンの意義やその学びの過程に着目した研究は、心理臨床領域の訓練課程を扱う研究として新しいものである。

グループ・スーパービジョンは、現在の日本の臨床心理士の訓練および卒業研修において要となる学びの方法である。そのため本研究は心理臨床領域におけるグループ・スーパービジョン参加者の、学び体験の質や満足度の評価に役立つことが期待され、より参加者の学びの役立つグループ・スーパービジョンの運営への指針として役立つことが期待される。

比較文化研究により、欧米から日本に導入された心理療法の訓練について、文化的な背景を考慮しつつも国際交流的な学び体験の質や意義を検証する基礎を形成する。さらに日本独自のグループ・スーパービジョンによる訓練・研修の状況を客観的にとらえて考察することができる。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究では、従来の研究の成果をとりいれながら、グループ・スーパービジョンにおいて生じている学びの体験をとらえる尺度を幅広い対象に施行することにより、その英語版を作成する(2) この尺度を用いて、熟練者と初心者のグループ・スーパービジョン体験の違いを明らかにする。

(3) 作成されたグループ・スーパービジョンにおける学び体験尺度を英訳し、その結果について異文化の心理臨床家、訓練者と討論することで英語圏および東アジア圏のグループ・スーパービジョンにおける学び体験と日本のグループ・スーパービジョンにおける学びの体験の比較検討をめざす。

## 3. 研究の方法

初年度、連携研究者の協力を得て、グルー

ブ・スーパービジョンにおける学びの体験尺度項目が構成された。

作成された尺度を 107 名の臨床心理士および初心臨床心理士に施行し、因子分析を行った。得られた各因子得点について、4 年以上の経験のある臨床心理士（25 名：経験群）と、4 年未満の経験にとどまる初心臨床心理士（82 名：経験の浅い群）の間で比較を行った。作成した尺度と経験群・経験の浅い群間、すなわち経験者・初心者間の差異について、英国の心理臨床訓練者、および米国の心理臨床訓練者、英語の堪能な東アジア圏の心理臨床訓練者に対して提示し討論を行い考察を行った。またアメリカ心理学会において研究結果を発表し、討論を経て考察を深めた。

#### 4 . 研究成果

( 1 ) 先述の手続きにおいて作成されたグループ・スーパービジョンにおける学びの体験尺度は、主因子法にヴァリマックス回転を加えて因子分析された。その結果、発見的な学び体験因子（項目例；事例報告は臨床場面で起こっていることの意味をあらたに発見するためのものだ/事例報告では治療者が気づいていない側面を第三者に指摘してもらう）と、共感的学び体験因子（項目例；事例報告は臨床場面で起こっていることの意味をあらたに発見するためのものだ/事例報告を聞くことによって、心理臨床に関して個別性を超えた普遍的な知見を得られることがある）と、学びの困惑体験因子（項目例；事例研究会において、まちがった意見を述べてしまうかもしれないので自分の感想を述べるのは抵抗がある）さらに方向づけの期待体験因子（項目例；事例研究会における指導者のコメントから学ぶことが多い）の 4 因子を見出した。4 因子の得点について、経験群と経験の浅い群における因子得点を t 検定により比較したところ、Table1 のとおりの結果となった。発

見的な学び体験因子（ $t = 2.96$ ）と方向づけへの期待体験因子（ $t = -3.37$ ）といずれも  $P < .01$  水準の有意差が見られた。

Table 2. Comparison of Means of Factor score between Beginner and Experienced group

group	Experienced	Beginners	t
Means	N=25	N=82	
F1 total score(SD) Discovering learning	24.28(2.72)	22.72 (2.17)	2.96**
F2 total score(SD) Empathetic Learning	13.92(1.68)	13.53(1.35)	1.06
F3 total score(SD) Perplexity	5.72(.74)	5.67(.69)	0.31
F4 total score(SD) Expecting for guidance	7.68(1.60)	8.66(1.16)	-3.37**

本結果より、事例を扱うグループ・スーパービジョンの学びは、経験群と、経験の浅い群で、その体験が異なっていた。経験群では、発見的な学び体験得点が高く、経験の浅い群では、方向づけを期待する学び体験得点が高かったのである。経験によって学び体験が異なるもののどちらにとっても、それぞれ意義のある学びであることが示唆された。

( 2 ) また、本質問紙を英訳して異文化の心理臨床訓練家に提示し、協力を依頼できたことで、異文化のグループ・スーパービジョンについて情報収集を行い下記のことが明らかになった。グループ・スーパービジョンは、スーパーバイザーも含めて事例から学ぶことのできるユニークな学びの形式であり、運営のタイプとしてその閉鎖的タイプと開放的タイプのものが浮かび上がってきた。

閉鎖的なタイプのグループ・スーパービジョン；訓練組織の一部として運営されており、部外者が参加できないシステムである。それだけに、その運営にはスーパーバイザーの個性や工夫が認められる。またその学びの質にはスーパーバイザーだけでなく、参加者のコミットも大きな要因として影響する。（事例：International School of Analytical Psychology, Zurich）

開放的なタイプのグループ・スーパービジョン；セラピストの情緒的反応をコンテンツ化するグループとして機能するワーク・ディスカッションは、開放的なグループ・スーパービジョンの発展形としてとらえることができる。グループにおけるコンテインド体験はパラレルプロセスとして体験され、これにより、非言語的な水準で現場での治療的活動の質を向上させる可能性を持つ。(事例：Tavistock Center, London)

#### 5 . 主な発表論文等

〔学会発表〕(計2件)

○American Psychological Association  
2013年大会 (Honolulu) 発表; Comparing  
group supervision experience between  
beginner and well-experienced clinical  
psychologists in Japan, Mari Yoshikawa,  
Hiroyuki Moritani, Katsuyasu Nishi,  
Yoshiko Ito, Kikuyo Aoki

○American Psychological Association  
2013年大会 (Honolulu) シンポジウム ;  
Embrace Cultural Issues in Counseling  
Training & Supervision—Models and  
Practices in Multiple Countries :  
Counseling Training & Supervision in  
Japan: A Common Model & Limitations,  
Mari Yoshikawa & Makiko Kasai

#### 6 . 研究組織

##### (1)研究代表者

吉川真理 (学習院大学)

研究者番号 : 50242615

##### (3)連携研究者

伊藤良子 (学習院大学)

研究者番号 : 20203185

森谷寛之 (京都文教大学)

研究者番号 : 60131257

西井克康 (武庫川女子大学)

研究者番号 : 10198426

青木紀久代 (お茶の水女子大学)

研究者番号 : 10254129